

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2011 第64号

昨年の藤桜祭より

あなたとともに
100万人の仲間とともに

自主創造
日本大学

《目

「帰属意識の醸成と高揚に向けて」	2
ご挨拶	2
平成23年度総会・懇親会開催	3
平成22年度校友会決算および	
平成23年度校友会会計予算	3
東日本大震災の校友被災者に対する	
支援活動について	4
東日本大震災宮城県現地視察	5
農学校友会(植物資源科学科)	6
紫友会(生命化学科)	6
角笛会(獣医学科)	7
満喜葉会(動物資源科学科)	7
いもづる会(食品ビジネス学科)	8
あすなろ会(森林資源科学科)	8

次》

桜水会(海洋生物資源科学科)	9
工学会(生物環境工学科)	9
F T会(食品生命学科)	10
拓友会(国際地域開発学科)	10
応用生物科学科校友会(応用生物科学科)	11
短期大学部湘南校友会	
(短期大学部生物資源学科)	11
支部だより	12
校友だより	13
東日本大震災被災地視察報告	13
東日本大震災宮城県支部・支援報告	14
校友会事務局からのお知らせ	15
会則改正のお知らせ	15
平成24年度通常総会通知	16

「帰属意識の醸成と高揚に向けて」

日本大学生物資源科学部 学部長 河野 英一



本年の3月に発生した東日本大震災、その大影響による原発事故放射能被害、計画停電、15%電力使用制限、9月に発生した台風12号による和歌山、奈良、三重の3県にわたる豪雨被害などがあって騒然とした半年が経過致しましたが、日本大学生物資源科学部校友会の皆様にはご健勝にて過ごされたことと拝察申し上げます。また、皆様には、平素に本学部の教育、研究、学生支援等に多大なご援助を、特に近年において経済的な困窮学生の多数へ多大な奨学金の給付を戴いておりますことに対し、本学部を代表して心より深謝申し上げる次第でございます。

本学部校友会の皆様におかれましては、平成21年度に、昭和24年の新学制による日本大学農学部を開始を始まりとする創立60周年のお慶びを迎えられました。誠にめでたうございました。本年度におきましては、本学部が昭和26年の日本大学と東京獣医畜産大学との合併を始まりとする創設60周年を迎えることとなりました。この創設60周年記念式典は本年11月5日(土)に本学部内で盛大に行われることとなっております。本学部校友会の皆様におかれましては、心からお慶び戴けるものと存じ上げます。

さて、環境の時代と言われる21世

紀の到来とともに、「生物生産・利用科学」「環境科学」「生命科学」の3つの科学とこれらが調和・共生・融合した総合科学とを教育・研究の主軸とする本学部は、この時代に即応できる科学技術と人材との育成における『旬』を迎えていると言えます。この『旬』が本学部のさらなる飛躍・発展の絶好機であることは言うまでもありません。正により質の高い入学生を迎え入れることが出来るようになります。日本大学にとっては、学生諸君の大学に対する帰属意識の醸成と高揚が重要な課題となっております。この課題を克服できる要因の第一は、何と云ってもより質の高い学生がますます望んで入学して来るようになって、社会における日本大学の評価が向上することであり、平たく言うならば、それは大学偏差値の向上ということでもあります。

私は、昨年10月の学部長への就任にあたり、質の高い学生がより多く入学してくるようにするため、「研究は当たり前、教育に重点を移動」ということで、教育に重点を置き、今よりもさらに多くの学生が卒業後に希望する優良な進路先に決まるようにして社会的な評価を高めること、また学内の教育による取り組みだけではその評価の向上が緩やかであることから、

一般入学試験において数年間は募集人員を下回ることが起こっても毅然として妥当な合格基準点を守っていく、あるいは毎年一点ずつでも上積みしていくこと、すなわち大学偏差値の維持・向上を図ることを実行するとお約束致しました。お陰さまで、昨年度の入学試験では、『旬』を迎えている生物系大学・学部・学科への入学志願者の増大とも相俟って、今までよりも質の高い学生諸君の入学を得ることが出来て、大学偏差値も高めることが出来ました。今度は、これらの質の高い入学生に対する教職員の熱意の始動が大切であります。

以上のことを本年度以降も継続していくことによりまして、必ずや本学部の学生・卒業生諸君の帰属意識の醸成と高揚に年々向上がもたらされるとともに、それらが本学部校友会のますますのご発展に繋がることになると確信致しております。このことにつきまして、校友連携の大きな受け皿、太い絆となっている本学部校友会の皆様のご理解とご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い致します。

ご挨拶

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎



本年3月11日の東日本大震災において被災された皆様に心からの御見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興、生活再建がなされることを願っております。学部校友会会長として校友とともに支援の協力体制をとってまいりたいと考えております。

平成23年7月1日、日本大学校友会役員総会が開催され、

(1)平成23年度事業計画

- ①桜門会館の管理運営
(桜門会館運営事業)
- ②校友子女入試の推進
(日本大学学生募集への支援事業)
- ③全国校友大会の開催
(会員の福利厚生に関する事業)
- ④スポーツの振興と推進
(体育活動助成事業)
- ⑤スポーツ優勝者表彰
(体育活動助成事業)
- ⑥スポーツに対する奨励金交付
(体育活動助成事業)

- ⑦全学文化事業(NU祭)支援
(文化活動助成事業)
- ⑧診療費助成
(準会員に対する診療費助成事業)
- ⑨校友会独自の奨学金
(準会員に対する奨学事業)
- ⑩校友子女入試の充実に伴う特別優待制度の拡大
(準会員に対する奨学事業)

(2)平成23年度収支予算

(3)東日本大震災被災学生支援寄付金に関する件、などが審議され全て承認されました。この内「東日本大震災被災学生支援寄付金」は、校友会から日本大学へ1億円を寄付することとなりました。

その後、平成23年7月9日に開催された学部校友会総会に於いて学部校友会としても支援の予算化を図るとともに本部校友会への寄付金支出の方針を確認いたしました。会長改選については、会長選挙管

理委員会、分会長会、幹事会においてそれぞれ慎重審議を経て策定された会長選出規定に基づき、私が学部校友会会長に再選されました。直ちに新執行役員会を組織し、生物資源科学部が目指す教育理念と目標に対して、また日本大学校友会事業計画に対して全力を傾注し支援することをお約束し、本学部の発展を願うとともに準会員や校友の皆様から期待される校友会活動を推進してまいります。校友の皆様のお力添えとご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、私のご挨拶といたします。



平成23年度生物資源科学部校友会 通常総会・懇親会報告

平成23年7月9日(土曜日)午後1時から2時30分まで、本学学部博物館棟2階会議室に於いて会員85名が出席して通常総会を開催した。

通常総会は木島実事務局長の開会の辞の後、報告事項と議事項目についての説明があり、引き続き内田俊太郎会長が「今般の東日本大震災被災地に対して日本大学はもとより本学部校友会としても支援して行くことを考えたい。また、校友会の使命は校友会員の親睦と意志の疎通、更に母校の発展のための後方支援にある。会員はどうぞ絶大なるご支援をお願いしたい」と挨拶した。



平成23年度学部校友会 通常総会

総会議事審議にあたり議長は赤塚敏夫副会長を選出した。また、書記並びに議事録署名人を選出した。審議事項の平成22年度事業報告、会計決算報告、監査報告までを一括審議として、質疑応答の後全会一致にて承認した。なかでも、山本捷副会長・事務局長から、1)学部校友会正会員数は23年度当初

で91,827人、準会員は7,952人である。2)会長選出規定に基づき内田俊太郎拓友会会長が23年4月から3年間再任された。3)予てから念願であった学部発祥の碑を学生の自校教育、啓発のために図書館横に移転した。4)特記すべきは、準会員に対する支援として奨学金、教育資材寄付金等974万円の援助行ったこと、等が詳細にわたって報告された。

続いて23年度事業計画案、会計予算案の審議に入り、23年度は東日本震災被害者に対する支援活動(早い時期に学部校友会宮城県支部を通してどのような支援が有効か調査団を派遣する等)、学部創設60周年記念事業に対する対応等の事業が盛り込まれた。また、23年度予算総額は6,300万円として事業計画、予算案とも一部修正案が出されたが原案通り賛成多数で承認した。

さらに、校友会会則等の改正案では、監事を監査役に、事務局長を幹事長の名称に変更する、役員任期を2年1期から3年1期に変更し、会長・監査役の任期は3期から2期迄と変更を承認した。変更の詳細は校友会ホームページに新しい会則を掲載しているので参照したい。また、新たな任期として分会から提出された今後3年間の新幹事の名簿が発表され、全員一致で承認した。

以上で総会は終了し、会場を食堂に移し、懇親会を開催した。今年度の総



平成23年度学部校友会 懇親会集合写真

会懇親会は例年、多くの来賓をお呼びして開催していましたが、今年は東日本大震災という未曾有の災害が発生した。従って、お祝い行事を自粛縮小して開催することになり、校友会予算からと出席者会費の一部を義援金として寄付することになった。

懇親会は石川稔矩副会長の司会で進められ、内田俊太郎会長、河野英一学部長のご挨拶があり、浅海敏明学部事務局長のご発声で乾杯を行い出席者は和気藹々歓談、談笑した。その後各分会より表彰推薦を頂き、執行役員会で審査し、総会で報告した4名の方々に表彰を行った。表彰者は農学校友会・石井賢治様、紫友会・茂澤杲様、農学校友会・櫛毛隆行様、FT会・田代勇生様でした。楽しい時間も過ぎ恒例の締めを関村具由副会長の拍子木による三本締めを行い、最後に木島実幹事長の閉会の辞をもって閉会し来年の再会を約束した。

(記:木嶋弘倫副会長)

平成22年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算
自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
日本大学生物資源科学部校友会 会長 山本捷 副会長 赤塚敏夫 事務局長 木島実 (単位:円)

(収入の部)				
科 目	22年度予算(A)	22年度決算(B)	差 異(A-B)	備 考
1. 前年度繰越金	13,987,846	13,987,846	0	
2. 会 費	47,700,000	47,385,000	315,000	
1) 準 会 員 運 賃	47,400,000	47,100,000	300,000	6,000円×7,850名(7月23日、9月25日入金)
2) 正 会 員 運 賃	300,000	285,000	15,000	3,000円× 95名(7月23日入金)
3. 会 費 会 費・税 金 等	1,000,000	790,000	210,000	総会・懇親会の会費及び税金
4. 雑 収 入	9,154	73,237	▲64,083	預金利息、預り金処理による雑収入等
5. 基 金 取 得 金	0	0	0	
収 入 合 計	62,697,000	62,236,083	460,917	
(支出の部)				
科 目	22年度予算(A)	22年度決算(B)	差 異(A-B)	備 考
1. 分 会 交 付 金	23,700,000	23,730,000	▲30,000	
1) 準 会 員	23,700,000	23,730,000	▲30,000	3,000円×7,910名(8月9日他交付)
2. 経 常 費	12,940,000	10,804,882	2,135,118	
1) 人 件 費	4,200,000	3,454,385	735,615	事務局員給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	0	470,000	日本大学本部校友会 支部役員会費
3) 事 務 局 運 賃 費	1,800,000	1,072,528	727,472	会計ソフト、事務機器使用料等
4) 通 信 費	2,500,000	2,403,045	96,955	会報発送費補助、支部総会資料発送費、その他送達費
5) 会 費	1,200,000	1,204,019	▲4,019	幹事会、執行役員会、その他各分会等
6) 交 渉 費	1,000,000	839,700	160,300	分会、支部、他学部への税金及び祝儀・弔電他
7) 交 通 費	1,700,000	1,263,530	436,470	支部総会出席、委員会等へ送く運営補助費他
8) 手 数 料	70,000	87,675	▲17,675	振込・払出・引出等銀行関係手数料
3. 事 業 費	21,920,000	13,935,430	7,984,570	
1) 総 会	2,000,000	1,693,704	306,296	総会・懇親会費用
2) 広 報	1,500,000	1,647,685	▲147,685	会報作成費用、ホームページ管理費用
3) 総 務 委 員 会 運 賃 費	150,000	72,543	77,457	総務委員会関係費
4) 財 務 委 員 会 運 賃 費	150,000	8,000	142,000	財務委員会関係費
5) 企 画 委 員 会 運 賃 費	150,000	76,010	73,990	企画委員会関係費
6) 広 報 委 員 会 運 賃 費	150,000	42,522	107,478	広報・会報編集委員会関係費
7) 組 織 委 員 会 運 賃 費	150,000	10,650	139,350	組織委員会関係費
8) 記 念 事 業 費	100,000	0	100,000	支部記念事業補助
9) 準 会 員 対 応 費	11,520,000	9,744,689	1,775,311	奨学金、教育資材、就職支援、修繕費他
10) 会 費 取 得 金	150,000	112,000	38,000	表彰品等 5 名
11) スポーツ振興対応費	300,000	300,000	0	日本大学スポーツ協会スポーツ振興特別委員会への寄付
12) 精神振興対応費	450,000	127,627	322,373	組織振興の応援等の費用他
13) 基金積立金繰入	5,000,000	0	5,000,000	基金積立金へ繰り入れ(一般利用分)
14) 予備費	200,000	100,000	100,000	ムラサキ賞等準備費
4. 予 備 費	4,137,000	2,846,693	1,290,307	資料の維持経費、学部長役員の会費借金、口蹄疫予防費等
当 期 支 出 合 計	62,697,000	51,317,005	11,379,995	
5. 次 期 繰 越 金	0	10,919,078	▲10,919,078	
支 出 合 計	62,697,000	62,236,083	460,917	
【積立金明細】 (単位:円)				
科 目	22年度末予算	22年度決算見込	年度増減	備 考
名 簿 積 立 金	4,979,351	4,979,351	0	
基 金 積 立 金	13,000,000	8,000,000	5,000,000	
準 会 員 対 応 基 金	5,000,000	5,000,000	0	
積 立 合 計	22,979,351	17,979,351	5,000,000	

平成23年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算 自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日 日本大学生物資源科学部校友会 会長 山本 捷 副会長 赤塚敏夫 (単位:円)					
(収入の部)					
科 目	23年度予算(A)	22年度決算(B)	差 異(A-B)	備 考	
1. 前年度繰越金	10,919,078	13,987,846	▲3,068,768		
2. 会 費	47,400,000	47,385,000	15,000		
1) 準会員運賃金	47,100,000	47,100,000	0	22年度の実績7,850名で計上	
2) 正会員運賃金	300,000	285,000	15,000	22年度の実績95名を100名で計上	
3. 会費会費・税金等	1,000,000	790,000	210,000	総会・懇親会等の会費税金、その他	
4. 雑収入等	23,922	73,237	▲49,315	預金利息等	
5. 基金取崩し繰入金	0	0	0	基金積立金の取り崩し	
6. 分会からの基金繰入金	3,697,000	0	3,697,000	校友会60周年記念基金分会からの預り金の繰り入れ	
収入合計	63,040,000	62,236,083	803,917		
(支出の部)					
科 目	23年度予算(A)	22年度決算(B)	差 異(A-B)	備 考	
1. 分会交付金	23,550,000	23,730,000	▲180,000	収入の準会員運賃交付予算の平準を計上	
2. 経常費	12,160,000	10,804,882	1,355,118		
1) 人件費	4,200,000	3,454,385	735,615	給与、通勤費、アルバイト費用他	
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部役員会費負担	
3) 事務局運営費	1,200,000	1,072,528	127,472	事務局経費他	
4) 通信費	2,500,000	2,403,045	96,955	会議室内の手配等、分会への会報補助費	
5) 会費金	1,200,000	1,204,019	▲4,019	幹事会、執行役員会、各分会(5委員会除く)他	
6) 交際費	1,000,000	839,700	160,300	分会、支部、他学部等への慶弔費等	
7) 交通費	1,500,000	1,263,530	236,470	購買交通費、5委員会除く・運営補助費他	
8) 手数料	90,000	87,675	2,325	銀行振込手数料	
3. 事業費	23,270,000	13,935,430	9,334,570		
1) 総会費	2,000,000	1,693,704	306,296	総会・懇親会、等	
2) 広報費	1,800,000	1,647,685	152,315	会報発行費、HP作成費等	
3) 総務委員会運営費	100,000	72,543	27,457	委員会経費、運営補助費他	
4) 財務委員会運営費	100,000	8,000	92,000	委員会経費、運営補助費他	
5) 企画委員会運営費	100,000	76,010	23,990	委員会経費、運営補助費他	
6) 広報委員会運営費	100,000	42,522	57,478	委員会・編集委員会経費、運営補助費他	
7) 組織委員会運営費	100,000	10,650	89,350	委員会経費、運営補助費他	
8) 記念事業費	100,000	0	100,000	支部記念事業補助	
9) 準会員対応費	11,520,000	9,744,689	1,775,311	奨学金、教育資材、就職支援、修繕費、スポーツフェスタ他	
10) 会費取崩し金	150,000	112,000	38,000	表彰品他	
11) スポーツ振興対応費	300,000	300,000	0	日本大学スポーツ振興特別委員会へ寄付	
12) 情報振興対応費	250,000	127,627	122,373	広報費用他	
13) 基金積立金	2,000,000	0	2,000,000	学部の60周年記念事業への積立金	
14) 学部の60周年記念事業費	200,000	100,000	100,000	学部の60周年記念事業検討委員会他	
15) 東日本大震災対応費	4,450,000	0	4,450,000		
予備費	4,060,000	2,846,693	1,213,307		
当期支出合計	63,040,000	51,317,005	11,722,995		
5. 次年度繰越金	0	10,919,078	▲10,919,078		
支出合計	63,040,000	62,236,083	803,917		
【積立金明細】 (単位:円)					
科 目	23年度予算(A)	22年度決算(B)	差 異(A-B)	備 考	
名簿積立金	4,979,351	4,979,351	0		
基金積立金	8,000,000	8,000,000	0		
60周年記念基金	5,000,000	5,000,000	0		
学部の60周年記念基金	2,000,000	0	2,000,000		
積立合計	19,979,351	17,979,351	2,000,000		

東日本大震災の校友被災者に対する支援活動について

東日本大震災発生から間がない23年4月上旬に学部校友会宮城県支部は、校友の安否・被害状況についての独自の郵便調査を行い、その結果が学部校友会会長宛に連絡があった。その調査結果については、ご夫婦の行方不明は一名。家族は全員無事、家は流失倒壊が2名、その他は若干の被害はあったが、全員無事で元気である旨の回答が23名でした。

学部校友会としては被災校友に対するお見舞い、支援等について何をすべきか、現地支部と打ち合わせした結果、次の要望が寄せられた。

【現地からの要望事項】

- 1) 先ずは学部として現地視察をお願いしたい。
- 2) その後、瓦礫処理、塩害、防波堤の整備等に対して、学術的見地から日本大学生物資源科学部のご意見を戴きたい。
- 3) 震災後の被災処理が完了した後、この地域の理想的な農業、水産業等に対する助言も併せてお聞かせ戴きたい。

【視察対応】

これらの要望に対して早速、学部校友会としては、次の2名を派遣することになり、23年5月11日、12日に第1回目の現地入りを行った。

学部校友会 会長 内田 俊太郎
同 副会長 関村 具由

第1回日本大学生物資源学部 視察調査報告

期 日：平成23年5月11日、12日

視察場所：宮城県仙台空港、名取市閑上地区、仙台港、七ヶ浜、塩釜

支部対応者：日本大学生物資源科学部校友会宮城県支部 小野隆支部長(宮城県議会副議長)、鎌田雅敬幹事長、櫻田昇事務局長、飯塚晃郎幹事

視察感想：仙台空港は震災後米軍海兵隊が瓦礫とヘドロを真っ先に撤去し、片付いていたが電気の配線が水浸しになったために配線工事の最中であつた。空港の貨物倉庫が火災のために真っ黒焦げになっていて、駐車場に止めてあつた数千台の車が幾重にも重なり、片付けられないまま放置されていた。閑上地区はイチゴの生産地であつたが、見渡す限り何もなく、ただビニールハウスの名残の骨パイプが所々泥の中から出ているだけである。この地域は住宅、商店、工場が軒を連ねていたところであつたが、家は土台から引きちぎられ土台だけが残っている家、土台の痕跡のない家、鉄筋で出来ている建物は一階部分はぶち抜かれ、建物は傾い

ていて再建不能である。瓦礫は津波に流されたままになっていた。仙台港に着くと今まで見た風景とはがらりと変った光景を目撃した。大きな倉庫が立ち並んでいるが、全てが津波の被害を受けて、傾いたり、壁がなくなったり、倉庫の中の品物が外に散乱していたり、トラックが横倒しになって何台もが重なり合っていた。仙台港に引き込まれている貨物線が壊滅的被害を受けていて、仙台全域に供給している変電所も被害を受けた。また、同時に七ヶ浜を過ぎてすぐの火力発電所が被害を受け再起が危ぶまれている。視察後宮城県県議会会議室で今後の支援等についての意見交換を行った。

この現地視察を踏まえ、学部校友会と日本大学生物資源科学部・河野英一学部長が協議した結果、校友会宮城県支部からの具体的な要望について学部側としてどのような支援が出来るか検討して頂くこととなった。

【5月19日、宮城県支部からの「東日本大震災復興についての要望書」】

- 1) 震災被災地域の田畑の塩害に対する対策、土壌改良及び今後予想される問題点
- 2) 原発の放射能汚染による畜産業への影響、予想される問題点
- 3) 津波被害によるカキ、ワカメ、コンブ、ホタテ、ノリ等の養殖被害、ウニ、コンブ、サケ等の漁業被害に対する復興手段と今後予想される問題点
- 4) 瓦礫の分別、除去の方法、それらに伴うダイオキシン対策について
- 5) 震災地域の今後の地震対策

【第2回被災地視察対応】

これらの生物資源科学部校友会宮城県支部の要望に対し、学部側と校友会で検討した結果、学部の専門的先生方を募りお願いして被災地視察として日本大学生物資源科学部視察調査団を組織し下記の内容で視察調査を行うこととなった。

期日：平成23年6月23日～25日

「日本大学生物資源科学部視察団」

名簿：河野英一学部長(生物環境工学科・地域環境保全学)、半澤和夫主任教授(国際地域開発学科・国際農業開発論)、木島 実主任教授(食品ビジネス学科・食品マーケティング論、校友会事務局長)、片瀬隆雄教授(一般教養・基礎化学)、倉内伸幸准教授(国際地域開発学科・熱帯資源作物学)、浅海俊明(日本大学生物資源科学部・事務局長)、関村具由(日本大学生物資源科学部校友会・副会長)、島田周平(京

都大学大学院教授 民族共生論、農業経済学、人文地理学、特別参加)、(敬称略)

視察場所：1) 岩沼市玉浦地区(農地廃棄物撤去現場) 2) 亘理町吉田地区(除塩実証圃場)、被災現場・JA亘理支所中央選果場周辺 3) 仙台空港ビル(名取市下増田字南原)

4) 名取市閑上地区 5) 宮城県議会庁舎会議室(宮城県農林水産部長等5名出席 被害状況説明、意見交換)

支部対応者：生物資源科学部校友会宮城県支部 小野隆 支部長(食生)、鎌田雅敬 幹事長(生化)、武藤正(森林)、小高雄幸(食ビ)〔以上2名、監事〕、飯塚晃朗(海洋)、倉科公一(国際)、宗形裕一(森林)、片山俊正(環工)〔以上4名、幹事〕、(敬称略)

第2回視察調査団調査報告

岩沼市玉浦地区では田圃中の土壌に混ざっている瓦、ガラス、石等を手作業で除去している現場で説明を受けた。岩沼海浜緑地の災害廃棄物集積所には4～5メートルの分別された瓦礫が積まれていた。亘理町吉田地区除塩実証圃場では、塩水を被った田圃の水をポンプで汲み出し、塩分濃度を下げていたが、場所によっては地盤沈下を生じていて排水能力が間に合わない状態である。この一帯の田圃は地盤沈下したところ、塩水を被っているところ、ヘドロが溜まって乾燥して手の付けられない状態などが点在している。イチゴ農家では除塩方法は石膏を土に混ぜる方法をとっている。名取市閑上地区に向かう途中の地域では、前回の視察時から見て瓦礫等の片付けは進んでいた。閑上地区を見渡せる閑上湊神社の小高い丘の上から同地域と閑上漁港の被害状況の説明を受け、両所は無残にも壊滅したとのことである。視察の後、一行は県議会庁舎会議室において被害状況説明と意見交換を行った。意見交換会は総勢両者から21名が出席し、宮城県側からは航空写真による震災前、後の比較状況の説明があり、両者からの意見交換がなされた。

最後に河野英一学部長から、宮城県側に個々の問題を解決するために、生物資源科学部は協力してゆくと挨拶があつた。

後日、学部は植物資源科学科と相談して、被災地に建設した仮設住宅入居者の癒しのために鉢植えの花1,000鉢(プランター200個)を寄贈することに決定した。

(関村具由 記)



— 5 —

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局長 藤井 秀昭
E-mail: fujiaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成23年度農学校友会 総会・懇親会開催

5月8日、平成22年度農学校友会総会・懇親会が開催されました。博物館棟2階第1会議室で総会が行われ、理事の定数を、「20名以内」から「25名程度」への会則変更が承認されました。これにともない、新理事4名が追加されました。任期満了に伴う役員改正案が審議され、石川稔矩会長、飯島正一副会長、赤木洋行副会長、小林会計理事、村上新太郎監査役、市川靖監査役の役員・監査役の続投が承認されました。

スエヒロで行われた懇親会では、石井賢治名誉教授が昨年秋に「瑞宝中綬章」を受章されたことをお祝いし、花束が贈られました。また、昨年度制定された農学校友会会長賞の第2回の受賞者白岩弦君



石井賢治名誉教授「瑞宝中綬章」受章のお祝

が紹介されました。受賞理由は「付属農場における作物の栽培管理への貢献」です。

植物資源科学科の近況

[卒業・新入学生]

昨年度は145名の学生が卒業し、社会に巣立って行きました。4月には新入生148名(男子:98名、女子69名)を迎え、本年度は総数674名の学生が在籍しています。東日本大震災の影響で日本大学卒業式、入学式は中止になり、学部としていずれも略式に実施されました。計画停電や小田急線の部分運休があったこともあり、前期授業は5月6日から開始されました。それまでの期間は、学部ホームページを通じて多くの課題が与えられ、郵送によってレポート提出するやり取りが行われました。また、恒例となっている江ノ島鵠沼海岸での地引網は中止されました。

[海外研修]

大学院生を含む学科学生18名が、8月7日から14日の期間、国立中興大学(台湾)農業・自然資源学院の農業・園芸研修を受講しました。講義、農業試験場視察、討論会などを体験し、全員に修了証が授



第6回台湾研修

[学科教員の動き]

植物病理学研究室の前田孝憲教授が22年度末をもって退職されました。前田孝憲先生は平成12年から9年間にわたり植物病理学の講義を担当されました。学生指導に熱心に当たられ、多くの学生から慕われていました。代わって、本年4月から藤田佳克先生が植物病理学研究室教授として着任されました。藤田先生は長年にわたり、わが国で最も重要な病害であるイネいもち病に関する研究をされています。前任は農業・食品産業総合研究機構中央農業研究センター研究監理官です。



藤田佳克教授

[訃報]

一昨年度末で退職された前作物学研究室教授の石井龍一先生が本年2月13日に逝去されました。石井龍一先生は平成13年から8年間にわたり作物学の講義を担当されるとともに大学院博士課程学生を指導されるなど学部・学科の発展に大きな貢献をされました。ご冥福をお祈りいたします。

[事務局より]

農学校友会ホームページが開設されています。<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nogaku/> 会員各位の近況や告知したいことなどをお知らせください。(文責:野村和成)

紫 友 会

◇生命化学科◇

連絡先 栄養生理化学研究室
0466-84-3949 事務局長 関 泰一郎
E-mail: tseki@brs.nihon-u.ac.jp

この度の東北地方太平洋沖地震により被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。皆様の安全と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

平成22年度紫友会総会・懇親会

平成22年11月13日(土)日本大学生物資源科学部湘南校舎にて平成22年度総会・懇親会を開催いたしました。総会では平成21年度事業報告・決算報告、監査報告および平成22年度事業計画、予算案等の審議がなされ承認されました。

平成23年度第1回理事会

平成23年7月16日湘南校舎において平成23年度第1回理事会が開催されました。理事会では平成22年度事業報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ承認されました。また、平成23年度の事業計画、予算案が決定されました。

平成23年度第18回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第18回生9名が、同奨学生選考会により厳正に選考されて下記(敬称略)に決定いたしました。

2年次 加藤 達、野崎 宮香、峰岸 紋子
3年次 池田 彩佳、佐野 祐果、白井 宗一
4年次 安藤 由夏、田口 美穂、渡辺 師成

有賀豊彦教授 退任

有賀豊彦教授(栄養生理化学研究室)は昨年度をもちましてご退職されました。およそ半世紀に亘る本学科の教育・研究、さらには学部・学科運営へのご尽力に対して会員一同心から感謝申し上げます。今後の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

生命化学科・農芸化学科の近況

本年3月に平成22年度農芸化学科卒業生118名が社会へ羽ばたいて行きました。本年4月には新入生133名を迎え、総計629名(男子:344名、女子:315名)の学生が在籍しております。

本年4月1日付けで、熊谷日登美先生(食品化学研究室)、関泰一郎先生(栄養生理化学研究室)、西尾俊幸先生(生物分子機能化学研究室)が教授に昇格されました。同日、朝倉由香里助教(植物環境化学研究室)、平野貴子助手(生物分子機能化学研究室)が着任されました。朝倉先生は大阪大学理学研究科にて博士(理学)を取得後、大阪大学蛋白質研究所、オレゴン大学分子生物学研究所、コーネル大学植物部門でご活躍でありました。平野先生は本学大学院博士後期課程修了後、本学博士研究員として



朝倉由香里 助教



平野貴子 助手

ご活躍でありました。本年3月末をもって、実験準備室の坂内茉莉副手が退職され、後任として本年3月に農芸化学科を卒業された中谷友美実習助手が採用され活躍されております。また本年9月末をもって、川東正幸先生(植物環境化学研究室・専任講師)が退職されました。



中谷友美 実習助手

袴田 航専任講師(生物分子機能化学研究室)が日本応用糖質科学会奨励賞および日本大学生物資源科学部学部長賞を受賞されました。また、平成23年度中期海外派遣研究員として本年5月より半年間、荻原淳専任講師がフランス ストラスブールに出張しております。

紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会
校友会活動の一環として、紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が平成22年10月に開催され食品化学研究室が優勝しました。

紫友会事務局より

本年4月より、関 泰一郎教授が事務局長に就任いたしました。皆様のご支援をお願い申し上げます。学科の体制、教育、研究の状況につきましては是非、学科ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~cls/>)をご覧ください。

(袴田 航)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医病理学研究室
0466-84-3624 事務局長 渋谷 久
E-mail: shibuyah@bbs.nihon-u.ac.jp

平成23年度角笛会総会開催

平成23年7月3日(日)、日本大学生物資源科学部において平成23年度角笛会総会及び日本大学獣医学会が開催されました。中川秀樹会長より挨拶があり、土屋久義長(昭和47年卒)の進行で審議が行われました。平成22年度の事業活動として行った宮崎県口蹄疫被害に対する援助の報告がなされ、日本獣医師会会長と宮崎県獣医師会会長からのお礼状が紹介されました。平成23年度の事業計画では東日本大震災獣医師動物救援募金について審議され、事業活動として承認されました。角笛会の発展に貢献した功労者として中田寛次氏(岩手県)、笠木伯男氏(埼玉県)、森田一氏(埼玉県)、佐藤忠敬氏(山梨県)、両角吉三氏(長野県)、

佐々木和夫氏(新潟県)、志賀逸郎氏(新潟県)、田口忠男氏(新潟県)、金崎進一氏(高知県)、竹崎誠氏(高知県)、甲斐聡氏(宮崎県)、後藤光男氏(宮崎県)、佐藤順一氏(大分県)の13名に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的としたANMEC支援基金研究助成は、大学院生の飯田玄德氏が授賞しました。総会後、食堂棟3階にて開催された懇親会には他学科同僚校友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学



平成23年度角笛会懇親会の様子

部生(準会員)など128名が参加されました。にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。

菅原博文氏 震災を乗り越え 動物診療・陸前高田

平成23年5月17日岩手日報に角笛会会員である菅原博文先生(昭和55年卒)の記事が掲載されました。3月11日東日本大震災の津波により動物病院、自宅、両親を失いながらも、5月9日に獣医療を再開しました。友人から借りた軽乗用



平成23年度角笛会総会における角笛会功労者の授与式

車に診療道具を載せ、避難所から往診に向かうという不自由な状況下で、地域社会の復興に貢献しております。甚大な被害を受けた陸前高田市で、多くの飼い主と動物の拠所として現在も活躍中です。

第9回日本大学医療系同窓・校友 学術講演会の開催

平成22年10月9日(土)市ヶ谷の日本大学会館大講堂で第9回日本大学医療系同窓・校友学術講演会が松戸歯学部、歯学部、松戸歯学部、薬学部、生物資源科学部獣医学科から各領域でご活躍の先生方にご講演をしていただき、最新の知見を交換する場になりました。角笛会からは中西照幸教授が「実験動物としての魚類ーヒト疾患モデルとしてー」と題して講演されました。また懇親会は竣工して間もない桜門会館で行われ、他学部の校友と親交を深めることができました。



第10回日本大学医療系同窓・校友学術講演会(詳細は角笛会HPに掲載)

本年度の第10回講演会は角笛会担当のもと10月15日(土)、日本大学会館で開催されます。

(文責:渋谷 久)

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail: niwa@bbs.nihon-u.ac.jp

平成23年度満喜葉会-活動経過報告- 【役員会の開催】

定例の理事会・幹事会合同の役員会は、平成23年5月21日(土)午後2時より、学部博物館2階第1会議室において開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、その後会長を議長として議事に移り、平成22年度事業報告、決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。続いて、平成23年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、承認されました。その後、新役員の選出、東日本大震災被災者支援についての討議がなされ、役員会は閉会となりました。

【新入生歓迎会の開催】

上記理事会・幹事会合同役員会の後、午後5時より食堂棟2階において、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会(新準会員141名入会)が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

【平成23年度満喜葉会総会・懇親会の開催】

平成23年度満喜葉会総会は、平成23年6月11日(土)午後2時より東京・市ヶ谷の日本大学桜門会館3階会議室において開催されました。

事務局より過年度事業および決算報告、次年度事業計画および予算案が出され、審議の後承認されました。また、先の役員



平成23年度総会

会で推挙された新役員候補者が原案通り承認されました。平成23~25年度役員は以下の通りです。

会長 山本捷(44年卒)
副会長 小杉幸彦(42年卒) 神山衛二(43年卒) 新保千秋(46年卒) 加藤幸光(51年卒) 久保允人(56年卒)

また、新任役員として、荻原達也氏(理事:38年卒)、太田靖彦氏(会計監事:38年卒)、佐藤常男氏(会計監事:47年卒)の3氏が新たに選出されました。総会閉会の後、午後3時より場所を移し懇親会が開催され、宴は約2時間半に渡り盛大に執り行なわれました。



懇親会の記念スナップ

学科の近況

【卒業生および新入生】

東日本大震災の影響で恒例の学科謝恩会、卒業式が自粛・中止となるなか、平成23年3月25日に卒業証書伝達式が本学部内で執り行われ、無事141名が本学科を卒業し、

新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月に動物資源科学科は149名の新入生を迎え、在籍者は四学年合計で647名(7月1日現在)となっています。本年度の一年生の男女比は、男子46名(30.1%)、女子107名(69.9%:男女とも過年度入学学生を含む)となりました。3年前入学学生(現学部4年次学生)の様に男女比がほぼ拮抗する学年も見られましたが、その後もここ十数年来の傾向と同様に「女性上位」が続いており、現在も学部内で最も女子学生在籍者が多い学科(在籍者の半数を超えているのは当学科と獣医学科、食品生命学科の3学科)となっています。

【研究室の新設および昇格】

平成23年4月1日付けで、畜産食品科学研究室から新たにミルク科学研究室が増設されました。それに伴い、所属されていた増田哲也准教授は上記同日付けで教授に昇格され、新研究室を主催されています。

平成23年4月1日現在の各研究室配置と所属教員は以下の通りです。

6号館4階:①動物生体機構学(加野浩一郎准教授、沖嘉尚助手)、②動物育種学(泉水直人教授、山室裕准教授)、③伴侶動物学(福澤めぐみ助教)、④畜産食品科学(宮原晃義教授)、⑤ミルク科学(増田哲也教授)、⑥動物生殖学(甲斐蔵教授、園田豊専任講師)、⑦野生動物学(村田浩一教授、岩佐真宏准教授)

6号館3階:⑧草地学(丹羽美次教授、佐伯真魚専任講師)、⑨飼養学(小牧弘教授、梶川博准教授)、⑩畜産経営学(小林信一教授、小泉聖一准教授)、学科事務室(鈴木佳代実習助手、星佳織実習助手)

(山室 裕)

いもづる会

◇食品ビジネス学科◇

連絡先 地域環境経済学研究室
0466-84-3412 事務局長 磯田 みゆき
E-mail: miyuki@brs.nihon-u.ac.jp

平成23年度幹事会・懇親会を開催

6月4日(土)、平成23年度の幹事会および懇親会が学内で開催されました。幹事会では、本年3月11日に発生した東日本大震災で被災した方々に対する黙祷からはじまり、平成22年度の活動報告・会計報告と、平成23年度の活動計画・予算案が承認されました。引き続いて、本館地下1階のカフェテリアで盛大な懇親会に入り、多数の校友と準会員(学生)との交流の輪が広がっていました。

また、校友の情報を広く共有し、学生との交流促進と学生の就活にも活用するため、「校友会HP」を活性化することを方針化し、すでにその具体的な検討に入っています。運用が決まり次第、告知いたしますので、多くの校友の方の情報提供をお願いいたします。

学科の近況

【新入生】

本年度は、東日本大震災と原発事故の影響で、残念ながら例年の新入生歓迎会は中止され、授業開始も5月連休明けからとなりました。そのような中、当学科では146名の新入生を迎え、元気にスタートしました。カリキュラム改正の影響

もあり、男女比がわずかながら逆転し、女子が半数以上を占めました(男子68名、女子78名)。

5月21日(土)には、晴天のグラウンドで、例年どおり「スポーツフェスタ2011」が開催されました。新入生は、自らの創意工夫によりデザインしたお揃いのTシャツを着て学科一丸となって奮闘し、ま



スポーツフェスタ2011

た団結と熱意のこもった応援を展開しました。これにより、綱引きは堂々1位を獲得、6月22日にはこれを祝って、1年次学生と教職員合同で祝勝会を開催しました。今年度の新入生の高い結束力を示すもので、今後の活躍が期待されます。

【新実習科目開講】

本年度は、学科名を「食品ビジネス学科」と改称し、卒業時にフードコーディネー



調理学実習

ター、フードスペシャリストの資格取得等を可能にしたカリキュラム改正の2年目に入ります。資格対応の実習科目はその一部がすでに開講されており、夏期休暇中には「調理学実習」が集中により開講されました。2年次学生のほとんどが受講する中、これまで当学科にはなかった白衣を着て、和気あいあいと和洋中華のメニューを調理するなど、充実した



食料生産実習

実習となりました。また、以前開講された「農場実習」に食品加工実習を取り入れた新科目「食料生産実習」も夏期休暇中に開講、農場で宿泊しながら農作業等に汗を流しました。これら実践的な実習科目の強化により、社会に貢献できる人材の育成が期待されます。

【人事】

本年3月末をもって副手の齊藤潤子さんが退職されました。長い間ありがとうございました。4月には、磯田みゆき准教授が教授に昇格され、新しく刈坤助手、金田沙織実習助手が着任されました。おめでとうございます。今後のご活躍を祈念いたします。

(高橋 巖)

あすなろ会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail: kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

大震災からの復興を

心よりお祈り申し上げます

東日本大震災により被災された会員の皆様および関係の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様の安全と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

あすなろ会では、会員及び教職員の協力の下に、会員の安否、被災状況について調査し、岩手、宮城、福島、茨城、千葉県に居住する正会員は758名、同県出身の在学学生が22名であり、なかには甚大な被害にみまわれた方がいらっしゃる事が分かりました。4月23日に緊急理事会を開催し、家屋損壊等の被害を被った会員に対しお見舞いすることとし、8月末段階で7件、合計35万円のお見舞金をお届けいたしました。(会長 赤塚敏夫)

平成23年度理事会

平成23年度総会・懇親会を開催予定

平成23年9月10日(土)に平成23年度理事会が藤沢キャンパスにおいて開催されます。平成23年10月8日(土)には、平成23年度総会および懇親会が藤沢キャンパスにおいて開催されます。それぞれ、事業報告、決算報告、計画案、予算案、役員、積立金などの事項について検討されます。

教員の異動

～石垣先生退職～

石垣逸朗先生は、長年の教育研究活動に加え、あすなろ会事務局長など本会の運営にご尽力いただきました。平成22年11月に退職されました。長年のご尽力に対し、敬意を表しお礼申し上げます。松本こずえ副手が平成23年3月に退職されました。

新 任

小坂 泉助手、倉田洋平助手、山口春奈実習助手が、平成23年4月に着任されました。

実習あれこれ

水上演習林で冬期森林実習

積雪期の森林を自由に歩き回るための訓練として、冬季森林実習があります。スノーシューやクロスカントリースキーをはいて水上演習林の雪山を歩きまわり、樹木の観察、積雪の観察などを行っています。



水上演習林における冬期森林実習
八雲演習林で北方林実習

北方林実習は八雲演習林を活用して北海道の森林を学ぼうとする実習で、主に1年次学生がこれに参加しています。八雲演習林の見学はもとより、下刈り、

間伐などの作業体験、高性能林業機械の操作体験、集成材工場の見学などを行っています。この実習には、森林組合をはじめ、八雲町の皆様の多大な支援をいただいています。学生も北海道の空気と人を感じながら大いに勉強に励んだことと思います。



北海道八雲演習林における北方実習

水上演習林で造園学実習

造園学実習の特別訓練として、風致的伐採に関する実習を水上演習林で行いました。伐採木には太いものもありまし



水上演習林で造園学実習/風致的伐採特別訓練

たが、女子学生も恐れることなく果敢に挑戦していました。終わってみれば、充実した実習であったことと思われます。(鍛代邦夫)

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋生物機能応用学研究室
0466-84-3684 事務局長 松宮 政弘
E-mail: matsumiya@brs.nihon-u.ac.jp

平成23年度桜水会 総会・懇親会を開催

平成23年6月18日(土)午後1時半より湘南キャンパス10号館で平成23年度総会・代議員会・理事会が開催され、平成22年度事業報告、決算報告、監査報告、平成23年度事業計画案、予算案などが審議され、全て承認されました。また、3年毎の役員改選があり、吉田良之会長が再選されました。続いて午後3時より10年毎の同窓会が開催されました。さらに午後4時より食堂棟3階NUホールで会員・学科教員に加え、



平成23年度 懇親会

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail: m--aoki@brs.nihon-u.ac.jp

校友の一層の交流・支えあいをめざして

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災された多くの方々に対して、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。東北地方にご在住、故郷とされる会員の皆さまには未だ、ご不便やご不安な日々をお過ごしかと存じます。本会においては微力ながら被災された皆さまの支援につながる活動展を企画していく所存です。

新事業「期別等活動補助」内規の運用開始!

平成22年10月1日から、新たに「期別等活動補助」内規が定められました。これは、正会員や準会員が、同期生の横の繋がりを深めるために同窓会等を催す際に、本会から助成金を支給する規定です。これによる更なる本会の活性化や会員の連絡先等、最新情報の収集の場としての活用も目的としています。具体的な支援内容としては、通信連絡費: ¥30,000 と助成金: ¥20,000 の合計: ¥50,000 が助成されます。また、卒業後10周年毎の記念事業や年寿(還暦、古希他)の祝いに該当する年には、更に¥50,000 の特別助成金が助成されます。是非ともご活用ください。詳細は、本会HP(<http://www.bae-kougakukai.org/>)にてご確認のうえ、事務局宛に申請をお願い致します。

準会員である4年次在学学生数十名も参加しての懇親会が盛大に開催されました。

学科・準会員への支援

今年度は、1年次の必修科目である「海洋基礎実習」「海洋生物資源科学概論」、3年次の科目である「特別講義」への支援、スポーツフェスタ(学部運動会)の学科Tシャツ作成、学科広報用パンフレットの作成、学科受験生対策勉強会への補助、在学生の学会参加費の補助、卒業時の記念品の贈答、就職応援セミナーの開催の支援等をする予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生・在学生】本年4月に154名(男子100名、女子54名)の新入生を迎え、現在641名(男子446名、女子195名)の学生が在籍しています。4月27日(水)に新入生オリエンテーションが実施されました。当日は、快晴ながら強風のため鶴沼海岸での地曳き網と調理実習は急遽中止となり、新江ノ島水族館見学のみを行いました。前期に各教員が10名程度の新入生を担当して行う少人数制のセミナー形式の授業(フレッシュマン・セミナー)を行いました。

【応用コース・広域コースならびに食品衛生コース】「海洋生物資源応用コース」あるいは「海洋生物資源広域コース」

のいずれかを選択する2コース制をとっています。また、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格取得コースである「食品衛生コース」も設定しています。2010年11月の継続審査により「海洋生物資源応用コース」は、日本技術者教育認定機構(JABEE)から6年間(2010年4月~2016年3月)の農学一般関連分野・水産系の技術者教育認定プログラムとしての継続認定を受けました。



【人事】4年間学科事務を担当された榎本亜矢実習助手が本年3月に退任され、本年4月1日付で福島 翠実習助手が着任されました。

福島 翠実習助手

桜水会事務局より

桜水会のホームページは <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~osuikai/> からご覧いただけます。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(荒 功一)

平成22年度総会・講演会・懇親会の報告

平成22年11月27日(土)に22年度の工学会総会・講演会・懇親会を開催いたしました。講演会では、本学科の教授の瀬尾泰久先生をはじめ、学科卒業生の手塚義人氏(S61卒)を講師にお招きいたしました。瀬尾先生からは先生がこれまで取組まれてこられた研究から「発展途上国における米の収穫後処理技術」と題して講演、また手塚氏からは、ご自身の心臓移植・闘病体験を通じ生きていることの素晴らしさ、人生の意義を「いまを生きる」と題して講演をいただきました。懇親会では、学部執行部の先生方をはじめ校友会各分科会長を迎えて、会員と準会員との交流がなされました。平成23年度も11月26日(土)に湘南キャンパスにて総会とあわせ講演会・懇親会を予定しております。皆さまの参加を楽しみにお待ちしております。



瀬尾先生による講演風景 手塚氏による講演風景

学科の動向

本学科はJABEEの地域環境工学プログラム・農業工学関連分野の認定継続を得ることができました。会員の皆さまのご協力に感謝いたします。今後とも引き続き、

OB・OGの皆様で技術士・技術士補を取得の方は、学科HPから情報登録のご協力をお願い致します。

【人事退職】平成23年2月に、斎藤公三専先生、同5月には、瀬尾泰久先生が退職されました。

斎藤先生の測量学実習では、学生たちが本学を巣立った後を想い、時には厳しいながらも愛情あるご指導をいただきました。瀬尾先生には懇切丁寧な講義内容、ご指導をいただき、学生からは学問の面白さを再度認識したとの声も多く聞きました。両先生には、本学科のためにご尽力いただき誠にありがとうございました。長い間ごろうさまでした、これからもご健勝で活躍されますことを願う次第です。また同2月に鈴木哲也先生が、新潟大学農学部へ准教授として転任のため退職されました。更なるご活躍を期待します。

【人事昇格等】平成22年10月に、河野英一先生が生物資源科学部 学部長に就任されました。また平成23年4月に、青木正雄先生が教授に、都甲洙先生と長坂貞郎先生がともに准教授に、對馬孝治先生が助教に昇格されました。おめでとうございます。今後、更なるご自身の研究・教育の発展に加え、学科振興へのお力添えをお願い致します。

【事務局より】会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までE-mail 又はお葉書にてご一報ください。

(藤沢直樹・H6卒)

FT会

◇食品生命学科◇

連絡先 食品資源研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

○FT会理事会および総会の開催

FT会理事会が平成23年4月9日に、FT会総会は平成23年6月11日に本学湘南校舎食品生命学科会議室において開催されました。総会では平成22年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成23年度事業計画案および会計収支予算に関して承認されました。また、事務局長の交代が提案されました。長年、事務局長を務めてきた竹永章生先生に代わり、新事務局長に千野 誠先生(第11期)が推薦され、承認されました。

○日本大学生物資源科学部長賞受賞

田代勇生さん(第12期生、昭和57年本学農学研究科博士後期課程修了)が授賞題目「地元の未利用・低利用魚を活かした蒲鉾作りと地域活性への取組」で平成22年度日本大学生物資源科学部長賞を受賞されました。田代さんは、現在、(株)丸う田代 代表取締役社長で、平成22年11月には、「農林水産省・(財)日本農林漁業振興会主催 第49回農林水産祭 内閣総理大臣賞」を受賞されております。会員一同、田代さんの受賞を心よりお祝い申し上げます。

祝 第50期生 入学

2011年4月23日

学科の近況

○人事

平成23年4月1日付で井正直先生(食品生命工学研究室)と竹永章生先生(第16期生、食品資源利用学研究室)が教授に昇格されました。平成23年3月31日付で鎌田純子副手が退職されました。鎌田さんは学科およびFT会の事務、講義において先生および学生を支えてくださいました。鎌田さんの今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます。また、鎌田さんの後任として、光野亜希実習助手が採用されました。光野さんは、平成22年度、本学科を卒業されました。今後のご活躍を期待しております。

事務局より

会員の方で、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、新しくFT会のホームページ(<http://ftkai.net/>)からも各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)

○準会員(在学生)への活動

平成22年度の卒業式において、FT会オリジナルのネクタイピンとボールペンを記念品として贈呈しました。また、第46期学生(4年生)の中からFT会会長賞を佐藤静香さん、小川慎太郎さんに授与しました。また、1年生には、学部スポーツフェスタで新生へ飲料物の補助と富士自然教育センターにて行われたフレッシュマンセミナーの交通費補助をしました。スポーツフェスタの成績は、僅差の準優勝でした。3年生には、教員との懇親会への補助をしました。



フレッシュマンセミナー

拓友会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営流通研究室
0466-84-3457 事務局長 早川 治
E-mail: osamu@brs.nihon-u.ac.jp

平成23年度 拓友会総会を開催

平成23年7月16日(土)午後3時より、スタ一貸会議室市ヶ谷で平成23年度総会が開催されました。総会開始の前に、この1年間に他界された拓友ならびに東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を祈り、1分間の黙祷をささげました。その後、内田俊太郎会長の挨拶に引き続き、拓友会総会が毎年開催されずにきたことについて早川治事務局長より説明があった後、平成19年度から22年度の活動報告ならびに決算報告、監査報告があり、また平成23年度の事業計画と予算案が審議され承認されました。

今年度の主要な活動は、国際地域開発学



平成23年総会 内田会長挨拶

科行事の学術研究発表会、海外研修などへの積極的な支援を図ることです。次いで平成23年度から25年度の役員案が上程され、これまで副会長を務められた谷地三知氏と横塚攻氏が退任し、新副会長に小谷田

操氏(昭52年卒)と田崎秀明氏(昭54年卒)が、また新たに6名の新幹事が満場一致で承認されました。

(詳細は、拓友会ホームページ <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu/23yakuin.pdf>をご覧ください。)

東日本大震災者救援募金活動

平成23年3月25日の卒業式終了後、「平成22年度国際地域開発学科卒業生有志」による東日本大震災者救援募金活動が小田急線「六会日大前」駅と「湘南台」駅の2カ所で行われました。他学科の卒業生や地域住民の皆様のご協力を得て、総額336,325円に達しました。集まった募金は日本大学法本部「N.募金」でとりまとめ、日本赤十字社を通じて被災地に送金しました。ご協力ありがとうございました。

*平成23年度学部

スポーツフェスティバルで総合優勝*

平成23年5月21日(土)に举行された「学部スポーツフェスティバル」で、本学科が総合優勝の栄冠に輝きました。新1年生の団結力と集中力によって勝ち得た栄冠です。

内田俊太郎拓友会会長が日本大学生物資源科学部校友会会長に再任

内田会長は、平成20年7月12日に開催された日本大学生物資源科学部校友会総会において第5代日本大学生物資源科学部校友会会長に就任されていましたが、平成23年7月9日の学部総会において引き続き会長として再任されました。

訃報

副会長 鈴木孝昌氏(昭和年42卒)が平成23年3月8日、かねてから病氣療養中のところ逝去されました。享年67歳。鈴木氏は、帯広市出身で、中川昭一元財務・金融相の直系として87年市議選に当選以来、連続6回当選され、帯広市議会議長の要職も務められました。平成14年度から拓友会副会長として会の発展にご尽力下さいました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

参与 浜口喜博氏(昭和24年卒)が平成23年8月10日、心不全のため逝去されました。享年85歳。浜口氏は、1952年のヘルシンキオリンピック男子800m自由形リレーで銀メダルを獲得。自由形100mでも準決勝に進出し、わずかの差で決勝進出を逃しましたが、戦後の日本を大いに勇気づけました。水泳選手引退後は俳優として映画にデビューを果たし、テレビ番組「少年ジェット」でハリケーン博士役も務められました。多くの映画に出演したほか、日本水泳連盟役員(強化委員、代表総監督、常務理事)なども歴任されました。

昭和61年から平成10年の間拓友会副会長、平成11年から現在まで参与を務めていただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

拓友会事務局より

拓友会ホームページ<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu/index.html> をご覧ください。また、会員各位の近況や同期会などの活動の様子もお知らせ下さい。住所変更もホームページから行えます。(早川 治)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局長 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

学科の近況

現在応用生物科学科の在籍学生数は624名、学年別では1年生152名（男92名、女60名）、2年生163名（男103名、女60名）、3年生142名（男88名、女54名）、4年生167名（男107名、女60名）となっています。

昨年度は124名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

協賛活動

平成23年5月27日（金）に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、食堂棟の3階において新入生歓迎会を盛大に行いま



司馬先生と新入生（新入生歓迎会にて）



新入生歓迎会での交流

した。学科の教職員と100名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し、親睦を深めていました。またボランティアの4年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。

同じく5月には例年通りスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一されたピンク色のTシャツを着て競技や応援を行いました。あいにく競技の成績は奮いませんでしたが、天候にも恵まれ皆楽しく参加していました。

5月29日（日）と7月30日（土）、



砂入先生の挨拶

31日（日）には、学部のオープンキャンパスが開催されました。砂入教授と明石専任講師による模擬講義が行われました。また4号館で応用生物科学科の各研究室の展示を行いました。7月のオープンキャンパスでは384名の生徒及び保護者が来場されました。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、さらに模擬実験等も開催されたいへん好評でした。



学生実験の様子

事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さいますよう、お願い致します。

また、住所変更、改姓お問い合わせ等ございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

（司馬 肇、明石 智義）

短期大学部湘南校友会

◇短期大学部生物資源学科◇

連絡先 短期大学部生物資源学科 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局長 蒲原 義明
E-mail: kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

平成23年度総会・懇談会の開催

平成23年6月25日3時湘南校舎五号館531講義室において平成23年度短期大学部湘南校友会総会が開催されました。総会では、平成22年度業務報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ、承認され、平成24年度の事業計画、予算案が決定されました。また、平成21年の湘南交友会発足より会長を勤められた鈴木勝春会長の任期満了に伴い、新会長には福井祥子副会長、副会長には滝沢章氏が選出され、議場の承認を得ました。

【懇談会の開催】

上記総会の後、4時より本館スエヒロにて懇談会が開催されました。生物資源科学部学部長河野英一教授、鈴木勝春前会長と福井祥子新会長から挨拶があり、生物資源科学部の各校友会の皆さまにもご参加頂き、終始和やかな雰囲気で開催されました。



懇談会の様子

学科の近況

【卒業生】

平成23年3月に123名が無事卒業致しました。昨年度は3月11日の東日本大震災の影響により、武道館での卒業式や翌日のホテルでの卒業パーティが中止になり、湘南校舎にて卒業式及び学位記伝達式が執り行われました。卒業後の進路は、生物資源科学部への編入71名、他大学・他学部への編入10名、専門学校7名、就職13名、その他はアルバイトや家事、進学準備などでした。他大学への編入は山形大学、島根大学、信州大、麻布大学、東京都市大学などが挙げられます。また就職についてはユニテッドアローズ、ワールド、川崎信用金庫、河本造園、山崎パンなど様々な分野への進路実現を果たしています。

【在校生】

本年度は165名（男子76名、女子89名）の新入生が入学しました。二年生と合わせて340名の学生が在籍しています。今年度は震災の影響により、入学式や授業開始が数週間延期となり、また短大の恒例行事の軽井沢での新入生オリエンテーションが中止となりました。スポーツ



新入生ガイダンス



スポーツフェスタ

フェスタは例年通り5月に実施され、新入生が大奮闘。本気リレー準優勝、大縄準優勝、総合3位と言う結果になりました。

人 事

【昇格】

本年4月1日付けで新町文絵専任講師（植物機能開発学研究室）が准教授に昇格されました。教育と研究において、今後益々のご活躍を期待しております。

【新任】

田崎義浩助教（生物資源経済学研究室）

本年4月より着任されました。担当は『資源と環境の経済学』『食の経済学』『生物資源経済学演習』などです。教育と研究において、ご活躍を期待しております。



田崎 先生

【事務局より】

会員の方で住所変更や改姓などがございましたら、お手数ですが上記までメールかお葉書にてご一報ください。

（山内綾子）

支部だより

宮城県支部は今号14ページの東日本大震災被災地報告に掲載しております。

連絡先

〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31番地
小野 隆事務所 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail:takashi@enax.net

山形県支部の近況

連絡先

〒990-2433 山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail:t_jkeda@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp



平成23年2月19日(土曜日)かみのやま温泉「にほんの宿 古窯」にて、第19回山形県支部総会・懇親会を開催致しました。総会には、県内に幅広くいる会員以外に、学部校友会会長 内田俊太郎氏(拓友会会長)、生物環境工学科専任講師 内ヶ崎万蔵氏、山形高等学校・中学校校長 名古屋逸氏、生物資源科学部校友会宮城県支部幹事 宗形裕一氏、工科系校友会山形県支部副支部長 長瀬健一氏、経済学部校友会山形県支部支部長 田中教仁氏にもご臨席いただきました。

総会は小松文嗣支部長挨拶の後、来賓各位がご紹介され、その後議長に武田昇氏(国際地域開発学科平成3年度卒)を選出し、会務報告、会計報告、収支予算(案)等が全て原案通り可決決定され終了しました。総会終了後、講演会に移り、講師に生物環境工学科専任講師 内ヶ崎万蔵先生を迎え『ブラジルが歩む21世紀世界最大の農産物輸出国「セラード農業開発における日本の貢献」』と題した講演をいただきました。また、来賓の校友会会長 内田俊太郎氏より「校友会の近況について」お話をいただきました。

懇親会では、恒例になっております学科毎の「自己紹介」や、「近況報告」を通して更に親交を深め、絆を深める懇親会を開く事が出来ました。

高知県支部の近況

連絡先 〒780-0084 高知県高知市南御座12-3
高知県支部事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail:maekawa@mb.inforoma.or.jp
※連絡先:高知市南御座9-19から高知市南御座12-3に変更となっております。



去る8月27日(土)高知市の料亭「葉山」において、第23回高知県支部総会を開催いたしました。ご来賓の内田校友会会長、獣医学科の金山教授、茂澤校友会顧問、特別会員の高坂先生を県内各地から集まった校友が囲み25名の出席者となりました。

物故会員に対し黙祷を捧げたのち森田支部長より開会が宣言され、続いて内田会長より二期目をおつとめになるにあたっての校友会の現状や方針、震災ボランティア活動、地方支部に期待すること等、ご祝辞を頂戴致しました。

続いて高坂先生から近況のご報告とご祝辞を賜り、議事にうつりました。平成22年度事業および収支決算報告が全会一致で可決されたのち、理事が改選され、岡崎秀仁氏(農)・田所一清氏(短)の2名が監事に選ばれました。会長については次回理事会までは前任者がその任に当たることが承認され、平成23年度活動方針および予算も承認されました。

議事終了後、金山教授にご講演をいただきました。学部の組織や、近年ますます充実している大学施設のご紹介、各学科の研究成果について等をご説明いただいたのち、獣医学におけるライフサイエンスについてご講義いただきました。「6年で修める学問を1日でおぼえてください」と冗談でおっしゃっていましたが、たしかに駆け足ながらも非常に密度の濃いご講演でした。獣医学分野を専門外とする会員にとってもわかり易く、かつ興味深い内容であったと思います。講演後、茂澤顧問の乾杯のご発声で懇親会となりました。高知名物の血鉢料理を肴に、ご来賓を囲んで楽しく過ごし、県支部長崎顧問の音頭にて再会を祈念しての閉会となりました。

(高知県支部事務局 前川卓也)

神奈川県支部の近況

連絡先 〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
事務局長 小牧 弘
TEL&FAX.0466-84-3659
E-mail:komaki@brs.nihon-u.ac.jp komaki.hiroshi@nihon-u.ac.jp



「22年度総会・懇親会(崎陽軒本店にて)」

学部校友会神奈川県支部では、世良田支部長を中心に精力的な活動を行っています。

平成22年度は横浜駅東口、崎陽軒本店での総会・懇親会から始まって、校友会の畑で採れた新鮮なソバ粉を使つての年末の蕎麦打の会、年初



「一坪農園での学習と水やり」

めには2日間に渡り、藤沢で吉田良之副会長を中心に箱根駅伝の応援、そして、6月には支部長の日本大学名誉教授授与の内祝いを兼ねて蕎麦打の会を開催しました。

通年の活動としては、年間の計画に基づき一坪農園とソバ畑で農作



「カボチャ・ナスの収穫・バレイショ畑手入れ」物の作付を行っています。毎週月曜日の午前中には鈴木明夫理事の指導のもと、会員のみなさまの協力を得ながら農作業を継続的に行い、四季折々の農作物の栽培技術の習得と自然からの恵みである収穫の喜びを享受しています。この活動はソバの栽培を通じて、恒例となっている蕎麦打の会を支えている重要な活動の一旦です。

神奈川県支部のホームページは学部校友会のWebサイト「分会・支部一覧」に掲載していますので、会の活動をご覧下さい(生物資源科学部 神奈川県支部 で検索)。またご意見や希望がありましたら、細野広報理事(hosono.hidekazu@gmail.com)までご連絡をお待ち致して折ります。

(細野秀主)

校友だより

平成2年農学科卒業 櫛毛 隆行

私は、平成2年に農学科を卒業し、施設園芸メーカーの(株)誠和に入社、平成10年に退職し、就農しました。現在、施設トマト180a(養液栽培)の経営を行っています。



就農して間もない平成12年には、トマトの価格が暴落し、いきなり厳しい経営を強いられることとなりました。そこで、経営の安定と所得

向上を目標に、規模拡大など、さまざまな取り組みを行ってきました。その結果、中段密植栽培による年2作型という栽培技術を構築、大幅な所得向上を図ることができました。

そして、昨年の2月にはそれらの取り組みに評価を頂き、第3回栃木県元気な農業コンクールにおいて、元気大賞(農林水産大臣賞・知事賞)をまた、今年の7月には、全国農業コンクールにおいて、農林水産大臣賞を受賞することができました。

栃木県内の関係機関には、日大出身の方々が多く、私が、厳しい環境



NFTトマト

の中で頑張ってきたのも、その方々のご指導や、ご協力のおかげだと感謝しております。

農業を取り巻く環境は、まだまだ厳しい状況が続くと思われます。人と人とのつながりを大切に、これからも地域農業の発展に努めていきたいと思っています。

東日本大震災被災地視察報告

「東日本大震災」宮城県支部
視察の感想

国際地域開発学科主任・教授

半澤 和夫

東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。



本学部校友会宮城県支部のご好意により、6月24日仙台近郊の被災地を視察させていただきましたので、簡単に感想を述べます。私の郷里は県内の東松原市ですが、5月の連休に帰郷して郷里の被災地を一度見ております。現地を訪れて今回もやはり、言葉にならないほどの衝撃でした。とくに印象に残ったこと、2点について述べます。



その一つは、「イチゴの温室栽培」です。日本で大量のエネルギーを利用した冬場のイチゴ栽培に、私はずっと疑問を抱いてきました。しかし宮城県亘理町吉田地区でのイチゴ栽培は、これとはまったく異なるものでした。それは温かい地下水を利用してイチゴを栽培していたのです。貴重な地域資源を活用しているので、早期復興が強く望まれます。

名取市閑上地区はたびたび、テレビでも報道されていますが、がれきの撤去作業は非常に早く進んでいました。当日、私は皆さんとご一緒に、高さ6mの小高い「日和山」に登りました。何となく不思議な山でした。後で調べたら、大正9年、多くの人びとの勤労奉仕で築山されたことがわかりました。しかし今回は、ここに避難した人たちが、大津波で流されてしました。実に悲しい「日和山」でした。

宮城県支部の校友の皆さん、大変お世話になりました。今後とも宜しくお願い致します。

今こそ「学縁」のパワーを
発揮しよう

食品ビジネス学科 木島 実

私は宮城県被災地の生物資源科学部視察調査団に同行した。全壊した家屋、災害廃棄物集積所の流木・廃材、塩害により赤茶色となった防風林などの悲惨な情景は、今でも目に焼き付いている。さて、



東日本大震災は食料供給システムに甚大な被害を与えた。食料供給システムの復旧過程において、日頃は効率的かつ強固な流通システムを構築しているコンビニの復旧に時間がかかり、一方で家族経営の小規模スーパーや個人商店が震災直後に店舗を開け、1～2週間に果たした役割は大きいといわれている。つまり、平時には重要な役割を果たしている効率的・機能



的な食料供給システムよりも、地縁・血縁的な共同生活で構築された個人商店がパワーを発揮したのである。校友会は、校友が大学生生活で構築した「学縁」によつて成り立っており、校友会は被災地に対して、学縁によるパワーを今こそ発揮すべく、改めて校友会の役割を考えさせられた。

東日本大震災宮城県支部・支援報告



宮城県支部報告

「東日本大震災」による壊滅的な被害に、日本中・世界中からご心配と温かいご支援とともに、鎮魂・励まし・復興への想いを込めたメッセージを沢山いただきました。ありがとうございました。

2万人を超える犠牲者の9割超が津波による水死でした。人的被害が多く痛恨の極みです。当支部でも行方不明1名。家屋・車流失2名被災いたしました。



〈名取市関上、七ヶ浜町を支部長案内〉

5月11日、内田校友会会長、関村副会長が被災地を慰問、視察くださいました。

6月24日、技術等を含めたどのような支援が必要か問題点を整理分類するため、「生物資源科学部視察調査団（団長・河野学部長。専門分野の主任教授・教授・准教授8名）」が現地を視察・説明を受け、地域環境保全・農業復興・食の安全・ダイオキシン・田畑の塩害



〈災害廃棄物集積所・岩沼市海浜緑地〉



〈瓦礫処理が進む名取市関上地区〉



〈学部長・支部長と調査団・支部役員〉
対策等について県担当者と幅広く意見交換いたしました。

8月9日、植物資源科学科花卉園芸学研究室窪田准教授をリーダーとする皆さんが育成した花苗1000鉢を東松島市の3地区7カ所の仮設住宅に復興祈念として提携校・東北高校の皆さん、支部会員有志も手伝いお届けいたしました。



〈サルビア・ジニア等をプランターに移植〉



〈東北高校の皆さん〉



〈花卉園芸学研究室の皆さんと支部幹事長・右〉

未曾有の大震災から半年。いまだ行方不明の方も多く、避難所生活、就労状況など厳しい環境が続いておりますが、「再生へこころひとつ」に頑張っておりまます。多くのご支援、励ましをいただいた皆様に重ねて御礼申し上げます。

（事務局長 櫻田昇）

【支援の広がり】

大震災後の3月25日卒業式終了後「平成22年度国際地域開発学科卒業生有志」で六会日大前駅、湘南台駅の2駅で東日本大震災被災者救援募金活動が行われました。その後の被災者支援の輪を広げるきっかけを作った一場面です。



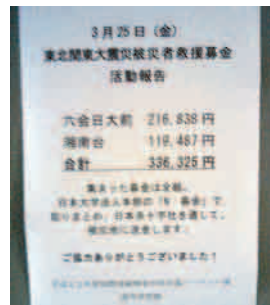
湘南台駅頭にて



日本大学校友会のぼり旗を掲げて



六会日大前駅頭にて



皆様のご協力により336,325円集まり
日本大学法人本部「N.基金」を通じ
赤十字社から被災地へ送金
ご協力感謝致します。



（掲載の募金文中に掲載の拓友会文章より一部引用致しました。）

◆事務局からのお知らせ◆

【会則改正のお知らせ】

平成23年7月9日開催の総会において、日本大学生物資源科学部校友会会則の一部改正案が提案され同日付で承認されましたので、お知らせ致します。

1. 今回の改正は役員の呼称及び役員任期です。

(1) 第8、9、10、11、19、26、27条

呼称の変更：監事 → 監査役、監事会 → 監査役会、事務局長 → 幹事長

(2) 第11条（役員の任期）

2年3期 → 3年2期

(3) 第26条(事務局)

事務長、事務員を置くことができる。 → 事務員を置くことができる。

(4) 第31条(規定・内規等の制定)

① 規定・内規等の制定 → 規定・要領等の制定

② 規定・内規等は幹事会の議を経て → 規定は幹事会の議、また、要領等は執行役員会の議を経て

2. 会則の改正に伴い「会長選出規定」及び「役員・委員会規定」を改正しました。

(1) 会長選出規定関係

第4条（立会人及びその職務）

立会人は監事2名 → 立会人は監査役2名

(2) 役員・委員会規定関係

① 第3条（幹事の選任）

各分会の会長、副会長、事務局長 → 各分会の会長、副会長、幹事長

② 第6条（日本大学校友会役員）

分会長の中から本会の会長が指名 → 役員の中から本会の会長が指名

3. 新しい会則は生物資源科学部校友会のホームページに掲載されていますのでご覧下さい。

■新監査役お二人の横顔

新監査役として、この度の総会で
お二人が選任され、従来の獣医学科
ご卒業の長尾壯七先生と共に三人
で監査役(今回の総会で名称が監事
から監査役に改正されました)とし
てご活躍をお願いすることとなり
ましたのでご紹介致します。

【農学校友会の石井賢治先生】

日本大学農獣医学部農学科を昭
和28年3月にご卒業。日本大学名誉
教授。農学博士(日本大学)。

平成22年度秋の褒章である瑞宝
中綬章を受けられたことから本年
の総会懇親会に於いてお祝いを申
上げました。

日本大学生物資源科学部勤務の
折には、校友会活動には多大なご理
解を頂き、校友会の4代目事務局長
を昭和50年から62年まで多年に亘

りお願いしております。前任の勝野
武彦先生が昨年10月執行部に入ら
れたことから、監査の任務に支障が
あるとのご自身の判断にてこの度、
退任を申出られ、石井先生を監査役
の候補としてご推薦頂き、総会の席
に於いて満場一致で監査役就任を
お願いすることとなりました。

専攻分野(植物育種学)である日本
育種学会(常任幹事・監事)、日本遺伝
学会、染色体学会(委員)、日本植物病
理学会などを通じて活躍され、また、
日本大学保険体育審議会専門委員
会委員、馬術部長として大学スポー
ツのあり方などに甚大なる貢献を
され感謝状を授賞、日本馬術連盟か
ら功労賞を授与されています。

現住所は東京都町田市です。

【紫友会の有賀豊彦先生】

日本大学農獣医学部農芸化学科

を昭和39年3月にご卒業。医学博士(日
本大学)。

本年3月を以て日本大学生物資
源科学部教授を退任されましたが、
校友会活動には日頃多大なご理解、
ご協力を頂いておりました。前任の
遠藤克監事(満喜葉会)の任期満了
による後任として執行役員会に於
いてご推薦し、総会の席に於いて満
場一致で監査役就任をお願いする
こととなりました。

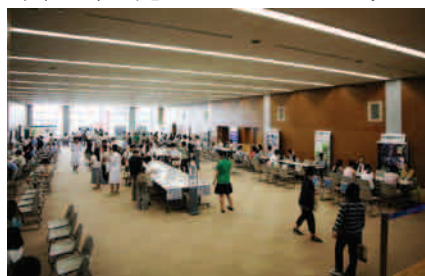
特にニンニクの研究で内外に有
名な方で、米国バンダービルト大学
病理学研究室客員教授、日本農芸化
学会評議員、日本生理学会評議員、
日本血栓止血学会評議員、日本栄養
食糧学会評議員、日本香辛料研究会
役員を歴任され、活躍されています。

現住所は東京都清瀬市です。

【学部祭】

10月22日(土)から24日(月)
の3日間、本年も藤沢・湘南校舎
にて藤桜祭が開かれます。今年の
テーマは「結〜つなげよう心と絆
〜」、3.11 東日本大震災に対し、み
なが心を合わせると共に頑張ろう、
全ての人々が共に繋がろうとの気
持ちを込めて開催されます。22、
23日は例年通り進学相談会が開か
れますので進学ご希望の関係者が
おられましたらお誘い合わせてご
来場下さい。本年も校友会の歴史や、

校友会の活動を展示したいと考え
ておりますので是非ご来場下さい。
メインコンサート、農場見学(22日)、
野菜の叩き売り、フリーマーケット、



昨年の進路相談会



昨年の学園祭 校友会テント

花火大会、第8回ミスNUBSコン
テスト(23日)、ピング大会、後夜
祭(24日)等が予定されています。

**【総会・懇親会】**

本年は記事にも記載しました通り、学内開催にて開催されました。来年も7月第2土曜日に恒例通り、総会懇親会を開催する予定です。学内見学・研究室訪問をはじめ同期会の開催等も検討されませんか。校友会がお手伝い致しますので事務局までお申し出下さい。

【正会員募集のお知らせ】

昨年6月、日本大学校友会の新たな活動拠点として校友会館「桜門会館」がJR市ヶ谷駅側に竣工した。気持ちの良いラウンジもありますので校友との歓談、会合にご利用下さい。校友会では日本大学・学部の益々の発展を願って正会員を募集しています。年会費は1万円ですが、学部所属の正会員になりますと学部校友会に還付金が出るとともに、輝く後輩達に診療費助成や奨学金、スポーツ振興等、応援活動が出来ることになっています。正会員には校友が経営するお店の割引や校友子女入試特別優待生制度等があります。また、正会員になりますと本部校友会から会報「桜縁」が年2回送付されます。詳しくは申込書に記載されていますので、学部校友会事務局宛に資料請求をお願いします。

【ホームページ】

学部校友会ではホームページを立ち上げております。会報は年1回発行しておりますが、新しいニュースは随時ホームページにてご報告しております。桜、薔薇、むらさき、カルガモの到来等季節のニュースも掲載します、是非ご覧下さい。住所変更は「校友会について」のページから定型のメールが発信出来ます。同期会等会合の連絡にも使えます、ご利用下さい。

連絡先：日本大学生物資源科学部校友会事務局

TEL.&FAX. 0466-84-3799

Eメール:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

平成23年10月1日

平成24年度 日本大学生物資源科学部校友会通常総会 通知
日本大学生物資源科学部校友会
会長 内田俊太郎

日本大学生物資源科学部校友会会則第16条に基づき、平成24年度通常総会を下記のとおり開催致します。会員の皆様のご出席をお願い申し上げます。

開催日時：平成24年7月14日(土) 午後2時から

開催場所：日本大学生物資源科学部 本館NUホール

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL.&FAX. 0466-84-3799(校友会事務局)

E-mail koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

議題 1：平成23年度 事業経過報告

議題 2：平成23年度 会計決算報告

議題 3：平成23年度 監査報告

議題 4：平成24年度 事業計画(案)並びに予算(案)

議題 5：その他

(平成24年6月の幹事会の決定により議題、開始時間、等が変更される場合があることをご了承願います。ホームページや出欠案内の葉書をご確認下さい。)

尚、総会終了後、学内食堂に於いて午後4時から懇親会を開催致します。会費制です。出欠案内の葉書が6月20日迄に届かない方は恐縮ですが校友会事務局の上記記載の電話、又はファックス、メール等でご連絡下さい。懇親会参加者は当日会場にて会費を申し受けます。同期会等を併せて開催されますことをお勧め致します。懇親会に併せて同期会等を開催される幹事の方は事前に校友会事務局迄ご連絡下されば、同期会の席を用意致します。

以上

【3.11 東日本大震災関連の寄付のお知らせ】

東日本大震災において被災されました皆さまに心より御見舞申し上げます。一日も早い復興を祈念申し上げます。日本大学校友会では各学部校友会還付金等の中から日大N. 基金への1億円の寄付事業を行い被災地学生支援等に活用を決めました。が、学部校友会でも記事中にあります様に、被災地への花プレゼントや総会懇親会経費節減による予算剰余金の寄付を決定いたしました。予算上では3頁の予算表にあります様に450万円の枠を取り、順次寄付事業を実施して参ります。

会報編集委員

農学校友会	野村和成	満喜葉会	山室裕	桜水会	荒功一	拓友会	倉内伸幸
紫友会	袴田航	いもづる会	高橋巖	工学会	藤沢直樹	校友会	司馬肇
角笛会	手島健次	あすなろ会	鍛代邦夫	F T 会	阿部申	湘南校友会	山内綾子

日本大学生物資源科学部校友会

ホームページアドレス

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~koyukai/>

またはインターネット検索機能で

「日本大学生物資源科学部校友会」で検索して下さい。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL・FAX 0466-84-3799

E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

印刷所 ペーシックプリント

TEL.048-833-3086 FAX.048-833-3128